放射能からいのちを守る全国サミット

2月11日(土)、12日(日)、放射能からいのちを守る全国サミット（放射能からいのちをまもる全国サミット実行委員会主催）が開かれた。初日は事例紹介や分科会、パネルディスカッションなどが行なわれ、2日目にはふくサポも会場の１つとなり、全国支援団体による被災者・避難者支援の実例をもとにお悩み相談会が行なわれた。会場は全国各地の紹介もあわせて行われ、全国お国めぐりのような楽しい雰囲気につつまれながらの相談会となった。

映画「ふるさとがえり」上映会

4月14日(土)パセナカMisseにおいて映画「ふるさとがえり」福島上映会（縁～enishi～PROJECT JAPAN主催）が行なわれた。代表の鈴木潤氏は挨拶の中で、「昔はみんなで集まって映画を見る機会が多くみられたが、最近はそういったことがなくなった。映画を見て自分にとってふるさととは何かをみつめる機会にしてほしい。」と語った。この映画は岐阜県恵那市を舞台にふるさとの絆が描かれている。助監督の池内絵美氏は6年半前、1人の男性が恵那市の住民の絆を大切にしたい気持ちとまちおこしを目的に映画づくりの相談にやってきた。それから仲間を集め地域で一帯になって作品を作り上げたこと等を語った。映画は現在、全国２００箇所で上映されている。

（右写真） 代表者挨拶

ふくサポ探検隊～プレゼンと広報をサポート～

プレゼンテーション戦法

プレゼンテーションが苦手という声をよく耳にします。
今回はプレゼンの５つのコツを紹介したいと思います。

１、プレゼンで必要とされるのは人柄、内容、伝え方です。人の印象は最初の４分で決まると言われます。
２、内容の組み立て方には２通りあります。
　①ＳＤＳ法　⇒　全体の要約→詳細説明→全体の要約
　②ＰＲＥＰ法　⇒　要点→理由→具体例→要約
　プレゼンは企画書やプレゼン資料を作って行なうものですから、資料をシナリオとして構成し、それにのっとて進めてください。時間内に相手に情報を正確に伝えられるようわかりやすい説明方法が必要とされます。
３、パワーポイント等を使った視覚効果を利用しましょう。ビジュアルをうまく利用することで、受け手の理解を助け、多くの情報を伝達できます。しかも、記憶に残る割合が大きくなります。
４、資料や映像などを提示してから、聞き手の方をを見て話す。この流れを守ると相手に伝わりやすくなります。
５、発表者のみではなく同行者も大きな役割があります。発表する者、フォローする者、記録とパートを設定し、本番に向けて意識をあわせていくことも大切です。

ふくサポ広報サポート

ふくサポでできる広報（イベント・募集情報等）をご紹介します。是非、ご利用下さい。

①ふくサポ通信にて掲載
②**ふくサポホームページがリニュアルしました！！**情報を掲載
③ＦＭポコ
　毎週金曜日17:45～「情報ステーションだより」にて紹介

にゃんこ隊長

新福島芸能倶楽部の皆さんが交流広場を風船で作ったお花で飾ってくださいました。（下写真）

編集後記

青空に鯉のぼりが元気に泳ぐ5月。鯉のぼりといえば、お父さん、お母さん、子どもと3匹で泳ぐ姿がよく見られますが、なぜ3匹なのでしょうか？古代中国に発する陰陽道では、3は縁起のよい数字と言われるそうです。また、お父さん鯉の黒は、冬で水を表します。水は、全ての生物の命の源であり必要不可欠なものです。お父さんの存在の大きさを示しているのかもしれません。お母さん鯉の赤は、夏で火を表します。火は万物を生み出す源であり、知恵を象徴する物です。夏は次々と生命を育む季節でもあります。まさに母そのものと言ってもいいでしょう。 そして、子どもの青は、春で木を意味します。全ての生命がのびのびと活動を始める春、そしてすくすくと伸びる木は、子供のあるべき姿そのものです。ふくサポも皆様に支えられすくすく成長できますように、ミニミニ鯉のぼりを飾って皆様の来館をお待ちしております。

内山、桜井、吾妻

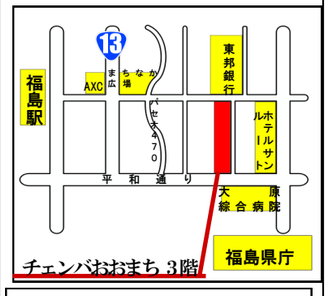
ふくサポ通信

2012年4･5月号
発行日：２０１２年4月30日
編集：特定非営利活動法人
ふくしまNPOネットワークセンター
発行：**福島市市民活動サポートセンター**
〒960-8041
福島市大町4-１５
チェンバおおまち　3階
TEL：024-526-4533
FAX：024-526-4560
URL：http://www.f-ssc.jp
E-mail:f-ssc@bz01.plala.or.jp

■開館時間
午前１０時～午後９時３０分
■休館日　　毎週火曜日

ふくサポとは･･･
･市民活動やボランティアの情報を提供しています。
･市民活動やボランティアに関するご相談にお答えします。
･登録制のレターケースや印刷スペース、打ち合わせができるスペース等をご用意しております。
　なお、ふくサポの運営は福島市から委託を受けたNPO法人ふくしまNPOネットワークセンターが行っています。

ふくサポの連絡先はこちらから→



◇JR福島駅から徒歩8分。当サポートセンターには駐車場はありませんので、ご車でお越しの節は、周辺駐車場をご利用くださるようお願いいたします。

もくじ

○コラム 「震災復興支援活動の中で問われる本来活動」
○福島市の活動団体を訪ねる
　第21回　NPO法人地域生活支援ネットOneOne
○イベント現場からレポート／うつくしまブランチ　他
○助成金･イベント情報
○ふくサポ探検隊
　～にゃんこ隊長、プレゼンテーションと広報をサポート～
　★プレゼンテーション戦法
　★ふくサポから広報サポート

コラム

「震災復興支援活動の中で問われる本来活動」

（福島大学特任教授・
ふくしまNPOネットワークセンター理事長／星野琪二）

3.11東日本大震災から1年1か月以上が経過し、ふくしまNPO･市民活動連携復興プロジェクト（略称ふくふくプロジェクト）会議も発足から1年目を迎えようとしています。このような中で、与えられた表題について考えてみました。

震災の起こる前は、NPO･市民活動団体数、たとえば全国レベルでも県レベルでも認証数の上では収束の傾向がみられようになり、これからは数から質へ、すなわち体力をつけながら活動の質を高度化していくことが課題になる、と踏んでいました。特に私どものような中間支援活動を担う団体としては、そうした方向を意識しながら、NPO･市民活動団体のレベルアップを図るべく中長期的な取組み事業の姿を描かなければならない、と思っておりました。

ところが、東日本大震災･原発放射能問題が起こり、NPO･市民活動団体の活動内容は、その緊急性から大きく描き替える必要性が生じました。まずは、復興支援という時間的な優先度をともなう対応を考えなければならなくなりました。そして、震災復興への効果的な対応として、ふくふくプロジェクト会議のような地域課題に取り組むためのNPO･市民活動団体同士の連携が必要となりました。加えて、首都圏初め全国から支援の手が差し伸べられてきていることもあり、より大きな枠組みの支援ネットワークの構築が求められてきています。さらには、政府や所財団から復興支援の助成金メニューの提示も多くなり、それに対する適切な判断に基づく対応が重要になってきています。

こうした中、緊急対応が必要なものを優先させつつも、本来の自分たちの組織のミッションとの関連性をしっかり見据えた活動や、組織運営が問われ始めています。そして、新たな要因として、NPO･市民活動団体数の立ち上げが再び増加に転じてきたことにも配慮していく必要性があるでしょう。

福島市の活動団体を訪ねる

4月、桜の蕾みもふくらみかけた頃、快晴の空の下、NPO法人地域生活支援ネットOneOneの河野理事長さんにお話をうかがってきました。

21回目　NPO法人　地域生活支援ネットOneOne

わんわんハウスでは、音楽にからだを動かして楽しんでいる子ども達もいてとても楽しそうでした！！

サポワン

代表者：理事長　河野由美子氏

スタッフ数：９名

（上写真）わんわんクラブ施設

活動歴：平成１３年２月、「わんわんクラブ」としてスタート。
平成１７年より、ＮＰＯ法人の認証を受けて、法人名を「地域生活支援ネットＯｎｅＯｎｅ」とし、新たなスタートをきる。

活動内容：「わんわんクラブ」ではこの日も元気に子ども達の声が響いていた。地域生活支援ネットOneOneでは養護学校に子どもを通わせる保護者達が、地域の中にも安心して過ごせる居場所を作りたいという熱意から「わんわんクラブ」を開設している。
「わんわんクラブ」は障がいをもつ子ども達の居場所の他に福島市立第３小学校に通う子ども達の学童保育も行なっている。いわば子ども達の交流の場だ。
「障がいをもっている人に接したことがない人は、どうしても障がいを持つ子どもというと身構えるでしょ？そうすると、障がいを持つ子どもも、その親も地域との接触がなくなっていきます。子どもは学校と家との往復だけで、社会からはずれてしまうから交流の場としても、社会参加の意味でもこういった場所がほしいと思うのです。」と、河野理事長は語った。
放課後や余暇の支援の他にここでは、土曜日にスポーツクラブや音楽療法、調理実習や陶芸教室など色々な施設を利用して、活動を行なっている。こういった体験が子ども達と地域との接点を作り、障害への理解を広めている。
震災後、子ども達に大きな変化はないか聞いてみた。「ここは大きな被害もなく３週間程度閉めただけで、再開しました。障がいのある子ども達は生活のリズムが狂うことを嫌いますから・・・。放射能問題もあり、子ども達が減るかと思いましたがそんな心配も無用でした。ただ、放射能はもちろん気になり、子ども達が遊ぶところは測定をしていますし、昨年の夏もいつもならビニールプールで遊ぶところをそれもできず、ストレスがたまらないよう体育館などに連れて行って遊びました。」そう語った河野理事長はどこか残念そうだ。
最後に、今、必要としていることがあれば教えてください。との問いに笑顔で河野理事長は「ボランティア、大募集です！」と答えてくれた。

（上写真）学童保育で遊ぶ子ども達

（取材　内山愛美）

障がい者の旅行を支援するボランティアセミナー

（上写真）車イスの扱い方を学ぶセミナー受講者

2月4日（土）、3月3日（土）の２回にわたり、ふくサポ会議室において、障がい者の旅行を支援するボランティアセミナーが開催された。（ＮＰＯ法人 バリアフリーツアーセンター主催）このセミナーは、福島を訪れる障がいを有する旅行者が、より楽しく、快適で、有意義な旅行を楽しむことができるよう、移動や案内をサポートするボランティアを養成しようと企画された。
１回目は、バリアフリーツアーセンターの目的と福島の魅力についてや聴覚に障がいを有する方への対応を学んだ。２回目は、視覚に障がいを有する方、車イスで移動する方への対応、バリアフリーツアーボランティアの役割について学んだ。参加者は、目隠しをして歩き障がいを持つ方の気持ちを体験したり、実際に車イス生活をされている講師の方から、車イスの扱いの注意を聞いたりしてボランティアを行う際に気をつける点について理解を深めた。

イベント現場からレポート

今回は、イベント情報盛りだくさんです！！

桜井スタッフ

復興支援ボランティア「パラソル喫茶」で交流

3月31日（土）、しのぶ台応急仮設住宅集会所でボランティアと仮設地域住民の交流の場「パラソル喫茶」（ＮＰＯ法人市民福祉団体全国協議会主催・ＮＰＯ法人まごころサービス福島センター共催）が開かれた。集会所には京都、東京、仙台などから復興ボランティアが11名訪れ、地元ボランティアや地域住民が作った浪江やきそばやお菓子などを楽しみながら、語り合い、交流を深めた。交流会の中で、今後、農業を行ないたいという住民の希望を聞き、ボランティアを代表してまごころサービス福島センター理事長の須田弘子氏より「農業を行なう上で役立てて欲しい。」と10万円がしのぶ台応急仮設住宅白坂自治会長に手渡された。ボランティア参加者は「忘れないことが支援だと思う。」と語った。

災害をのりこえる朗読フェスティバル

3月11日（日）、アオウゼにて福島市の朗読グループ６団体による、災害をのりこえる朗読フェスティバルが開催された。自然と人間とのかかわりや命の大切さ、助け合う絆の大切さなどを考えさせられる作品が朗読された。震災、原発の被害を受けた県内の中高生が書いた作文を再構成し、自分たちの思いも加えた高校生による発表もあり、若者の未来のために、大人たちは、これからどうすべきか真剣に考えなくてはならないと改めて感じた。
会場全体で、黙祷をささげる時間ももうけられ、東日本大震災から１年にあたる、この日にふさわしいイベントとなった。

（上写真）「風の会」による井上ひさし作「水の手紙」の朗読風景

手紙から始まる10年の思い

4月13日（金）、福島市公会堂において「吉永小百合原爆詩朗読会」（ＮＰＯ法人うつくしまブランチ主催）が開かれた。この朗読会は福島市に住む1人の女性の「吉永小百合さんの朗読会」を福島で開きたいという思いから始まった。10年間吉永さんに手紙を書き続けた女性、その人がうつくしまブランチの掃部郁子理事だ。代表理事の渡辺浩子氏は「伝えたい思いや願いを‘言葉’を軸に参加型のステージにしたかった」と語る。ステージは福島の子ども達の詩の朗読、福島市在住の詩人・和合亮一氏によるスピーチ、俳優・吉永小百合氏の詩の朗読の世界で、満席の会場は繰り広げられる時空を超えた詩の世界に熱い想いをはせた。

（右写真）
会場で接客するたくさんのボランティア

生と死を考える福島の会　総会記念講演会

4月15日（日）、福島市保険福祉センターにおいて、「突然夫が末期がんになったら～ありのままのあなたがすばらしい～」と題した高橋まり氏の講演会が開かれた。高橋氏は夫が末期がんに侵され、4人の子どもとともに在宅看護で支え続け、看取った経験がある。また、自らも胃がんの手術を受け、その姿は日本テレビやＮＨＫなどで放送され大きな反響を呼んだ。講演会では、生前の夫一二三さんの姿などが映像で流れ、娘さんとともに家族の絆の大切さや命の輝き、生きることの尊さなどが語られ、参加者の体験談に耳を傾けるなど会場一体型の講演会となった。

講演会「市民後見人の意義と役割」

4月7日（土）、こむこむにて成年後見制度、市民後見人についての講演会が開催された。（ＮＰＯ法人 市民後見サポートの会主催）
成年後見センターリーガルサポートふくしま支部前理事長 芳賀　裕先生の「成年後見制度の現状と課題」のお話、続いて筑波大学法科大学院教授上山　泰先生による「市民後見人の意義と役割」の講演が行われた。参加者は、分かりやすい説明を聞き、市民後見人の必要性、成年後見制度の課題について理解を深めた。

（上写真）講演を行う上山　泰先生

助成金 活動支援 情報

※詳しい情報はふくサポホームページもしくはふくサポ館内に掲示してあります
（担当：桜井千鶴子・吾妻雪）

平成24年度男女共生を進めるための県民企画応援事業

〈対象〉男女共同参画推進のために県内のNPO等のグループが主体となって自主的に企画・実施する講座やワークショップ等
〈対象となる事業テーマ〉①災害と男女共同参画　②女性や子どもへの暴力・虐待・差別防止　③男性の家庭・地域活動への参加　④女性のエンパワーメント　⑤性に関わる健康と権利　⑥仕事と生活の調和　⑦国際社会と男女共同参画　⑧その他男女共同参画に関連するもの
〈支援内容〉◎企画の協力　◎広報の協力　◎保育の利用 など
〈応募締切〉平成24年5月31日（木）必着
〈お問合せ先〉福島県男女共生センター「女と男の未来館」事業課
電話　0243－23－8304

地域福祉を支援する「わかば基金」

〈対象〉(1)支援金部門…国内に福祉活動の拠点を設け、この支援金でより活動の輪を広げたいというグループ
(2)リサイクルパソコン部門…パソコンの台数を増やすことで、より高齢者や障害のある人に役立てるグループ
(3)東日本大震災被災地支援金部門…被災地で福祉活動をすすめているグループ等
〈支援内容〉(1)最高100万円　(2)ノートパソコン50～100台（1グループにつき3台まで）　(3)最高100万円
〈応募締切〉平成24年5月31日（木）必着
〈お問合せ先〉社会福祉法人NHK厚生文化事業団
「わかば基金」係　電話　03－3476－5955

平成24年度ニッセイ財団　高齢社会助成

〈対象〉(1)実践的研究…高齢社会における地域福祉、まちづくりに関する実践的研究等
(2)先駆的事業…高齢社会における地域福祉、まちづくりを目指す地域を基盤とした先駆的事業、認知症高齢者に関する予防からケアまでの総合的な先駆的事業等
〈助成金額〉(1)1件当たり200～250万円程度
(2)1団体当たり700万円以内
〈応募締切〉(1)平成24年6月15日（金）
(2)平成24年5月31日（木）
〈お問合せ先〉日本生命財団　高齢社会助成　事務局
電話　06-6204-4013

東日本大震災現地NPO応援基金

〈対象〉(1)岩手県、宮城県、福島県において直接被災者の生活再建を支援する「現地NPO」（任意団体含む）
(2)上記(1)の活動を行う団体の「現地ネットワーク組織」または「現地中間支援組織」
〈助成金額〉1件あたり500万円以内
〈応募締切〉平成24年8月31日（金）まで随時
※6月、9月の選考委員会でそれぞれ前月末までの応募について選考
〈お問合せ先〉特定非営利活動法人
市民社会創造ファンド（担当：坂本・武藤）
電話　03－3510－1221

平成25年度　NFD one leaf fund

〈対象〉(1)植物保護活動…日本古来の植物種、地域固有種、絶滅危惧種等の保護・増殖等に関する公益的な活動　(2)自然保護・環境保全・環境福祉の調査・研究…日本の希少植物種の保護や自然景観・環境保全・環境福祉への貢献が期待できる調査・研究活動
〈助成金額〉総額300万円（1件あたり上限80万円）
〈応募締切〉平成24年8月31日（金）
〈お問合せ先〉
公益社団法人日本フラワーデザイナー協会
（担当：梶原・相川）　電話　03－5420－8741

お知らせ・イベント 情報

※詳しい情報はふくサポホームページもしくはふくサポ館内に掲示してあります
（担当：桜井千鶴子・吾妻雪）

NPO法人 ルワンダの教育を考える会　PRESENTS！！
ルワンダDAY　in　ふくしま

第1部　講演～アフリカのルワンダ内戦から生き残ったマリールイズが、支援先のルワンダの学園の子ども達の様子やルワンダの現状と課題そして「福島で生きること」を語ります～
第2部　人形劇とパフォーマンス～劇団「赤いトマト」による愉快なおはなしとパフォーマンスで楽しいひと時を～
〈日時〉平成24年7月16日（月・海の日）
開場13:00　開演13:30
〈場所〉福島市A・O・Z（アオウゼ）　〈入場料〉無料
〈お問合せ先〉NPO法人 ルワンダの教育を考える会事務局
TEL 024－533－8289

成年後見に関する定期相談会

〈日時〉毎月第1土曜日　14:00～16:00
（5月5日・6月2日）
〈場所〉チェンバおおまち3F
福島市市民活動サポートセンター
〈内容〉成年後見に関する事項（申立手続き含む）
〈相談員〉ふくしま成年後見センター会員
（研修修了者）
〈予約〉原則予約（当日も可）
…電話又はファックスで
〈お問合せ先〉特定非営利活動法人
ふくしま成年後見センター
TEL /FAX　024－535－5451

「人としての権利をどう護るか」

～福島大学教授　新村繁文先生をむかえての講演会～
誰もが、いつ何時でも人間としての尊厳を保持しながら生きることは、我々の権利です。この権利が
怯やかされた場合、我々はどう対処したらよいのか
諸制度を踏まえ考えようというものです。

〈場　所〉福島市市民会館　501号室（5階）
〈日　時〉平成24年5月10日（木）
15:00～16:50
〈入場料〉無料
（事前に電話かファックスください）
〈お問合せ先〉　特定非営利活動法人

こまつ座公演　「闇に咲く花 」

〈内容〉*井上ひさしが遺した「昭和庶民伝」の傑作！*

～昭和二十二年、東京神田。焼跡の愛敬稲荷神社。誰もがあの戦争を忘れ始めていた夏。思いもかけず、死んだはずの伝説のエース投手・健太郎が帰ってきた！これは忘れてはならない「記憶」の物語～

〈場所〉福島市公会堂
〈日時〉平成24年5月26日（土）6:30～
27日（日）1:30～　28日（月）1:30～
〈費用〉入会金1000円
月会費（一般2400円　大学生1500円
高校生以下500円）
〈お問合せ先〉福島演劇鑑賞会
TEL　024－523－3836

「認知症に関する定例相談会」

こんな症状のとき、どう接すればいいの？
介護がつらい、話を聞いてほしい等…

〈場所〉福島市保健福祉センター
〈日時〉毎月第2日曜日　13:30～15:30
（5月13日・6月10日・7月8日・8月12日）
〈参加費〉無料
相談会（つどい）では「ああ、自分だけではないんだ」と思い、そうすると気持ちが軽くなって、生きること、介護することへの勇気がわいてきます。他の方の知恵や工夫を知り、情報も交換できます。
〈お問合せ先〉公益社団法人
認知症の人と家族の会福島地区会
代表世話人　井桁
TEL/FAX　024－522－7886

～考えてみませんか？安心できる今日・明日～

◎成年後見制度　説明会
◎後見に関する個別相談会

～高齢期を迎えた方が、最後まで安心して自分らしく生活をおくれるよう手助けをしてくれるこの制度を、わかりやすく説明いたします～

〈日時〉毎月第2木曜日
（5月10日・6月14日・7月12日）
10 :00～11:30　18:30～20:00
＊夜の部は偶数月のみの開催
〈場所〉福島市中央学習センター
〈参加費〉無料（資料代300円）
〈お問合せ先〉
NPO法人　市民後見サポートの会
TEL /FAX　024－522－1426

講演会「東日本大震災を乗り越える」
福島にユーモアと笑顔を！

〈講師〉上智大学名誉教授
アルフォンス・デーケン 先生
1932年ドイツ生まれ。上智大学で「死の哲学」などの講義を担当。カトリック司祭。
〈日時〉平成24年6月10日（日）　14:00～15:30
〈場所〉桜の聖母短期大学
〈会費〉無料
＊送迎バスもございますので、お気軽にお問合せ下さい
〈主催〉生と死を考える福島の会
〈お問合せ先〉桜の聖母生涯学習センター
TEL　024－535－2531
（月～金曜日9:00～17:00受付）